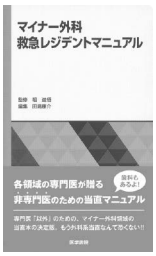
書評

[評者]
佐々木淳一
慶大教授・救急医学



マイナー外科救急レジデントマニュアル

堀　進悟 監修
田島康介 編

●B6 変型　頁 322　2016 年 7 月
定価：本体 3,800 円＋税
[ISBN978-4-260-02545-4]医学書院刊

このたび刊行された『マイナー外科救急レジデントマニュアル』は，数多くの整形外傷手術をこなす整形外科専門医であり救急科専門医でもある田島康介先生が，自分が知りたい他科の知識や，同僚医師らからよく聞かれる質問への答えをまとめた書籍です．

対義語の一つに，「メジャー（major）」と「マイナー（minor）」があります．アメリカ大リーグにおけるメジャーリーグ，マイナーリーグといった使い方はよく知られています．その意味を『大辞林』（第三版）で調べてみると，メジャーは「規模の大きなさま・主要な位置を占めるさま・広く知られているさま・有名なさま」，マイナーは「規模や重要度が小さいさま・あまり知られていないさま・有名ではないさま」と書かれています．医学の領域でも，内科・外科・小児科・産婦人科をメジャー科，それ以外の診療科をマイナー科といった使い方がされますが，何をもって二つに分けるのでしょうか．「仕事が大変 vs 楽」「入院患者数が多い vs 少ない」「全身を診る vs 局所を診る」など，どれももっともらしく思えますが，本当のところは医師国家試験の出題の関係でいわれるようになったようです．昔は上記のメジャー科が毎年必ず出題され，それ以外のマイナー科は毎年 2 科が選択出題されていました．

それでは，救急領域に使われている「マイナー救急」という言葉は，何を対象としているのでしょうか．Philip Buttaravoli の名著である“Minor Emergencies”（3rd ed, Elsevier, 2012）では，「直ちに命にかかわるほどではないが，すぐに対応しなければならない」さまざまな疾患や病態に対する救急，すなわち 3 大救急疾患（心筋梗塞・脳卒中・急性腹症）以外を“Minor Emergencies”としています．救急医療の現場で診療する患者の多くは軽症に分類され，その中に病態が重篤化するものが潜んでいることは重要なポイントです．救急医は，このような軽症の患者の相当数を「マイナー救急」として扱っているのかもしれません．もちろん外科系疾患も同様です．

実は，田島先生は評者の元同僚になります．彼の指導医としての信条は「まずはやらせてみること」です．また，臨床医としてのスタイルは「どうしても判断に自信がなければ専門科への受診を勧めるべき，それは患者さんのためでもある」「マイナー外科の疾患の中には緊急性が高いものも紛れている場合があり，緊急か否かを鑑別できる力は最低限備えておく必要がある」といったものです．本書は，これらの「田島フィロソフィー」がそのまま書籍の形で結実したものです．若手研修医のみならず救急医療の現場に携わる多くの先生方にとって，本書に書かれた「コツとポイント」は迅速な処置，他科への適切なコンサルトに役立つに違いありません．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2017

2026/09/15 18:01:55